

年はとったが、気持は若い。
まだまだ、「紀香」を美人と思う。

中央地域 今井嘉昭さん

昭和28年3月16日に入社し、平成8年6月23日に退社、勤続43年3か月8日の今井嘉昭です。



先日、編集長から創業当時の何かを書けとの連絡を頂いたのですが、何をテーマにすれば良いのか。

巾が広くて絞りにくい---ので、全体から見れば断片的になりますが、私が在籍した当

初の横浜・東京営業所の現業作業の一部を思い出しながら、日時の前後、テーマの軽重を甘んじて受忍し、取り留めのない話をします。

○創業期の頃

昭和28年、当時の船舶、港湾関係者の間では、沖の船から電話で用事を済ませるなどは、「考えられない、考えてもみない。」が一般的な傾向であり、その後の積滞時期の需要要望からみると未だしいものであった。(初期は「港湾電話と呼称」後に船舶電話に改称)

所内の港湾電話の作業予定の黒板には、何日もオーダーなし、あってもパラパラの状況で、創業期の顧客への周知、需要の喚起は大変なものであった。

横浜営業所の組織は、総務課、営業課、運用課、(工務系)の三課で、全員でも十数名であり、会社としての態勢も揺籃期、未熟であった。

勤務は、09:00~17:00で運用課にもまだ交替勤務はなく、夜間の作業が予定された時は、臨時宿泊で対応した。私も遠距離通勤だったので、ちょくちょく臨泊を命じられ、私的(遅くまで野毛で飲んで帰れず)泊まりを含めると連続16夜もあり、公私混同も甚なしかつた。夜、仕事が終わると、ハンドルとサドルの間の鉄棒の下に「港湾電話、岸壁電話」の看板を付けた自転車、中華街の銭湯で汗を流した後、真金町、曙町界隈を散策した。

・皇太子の渡英

昭和28年3月、イギリスのエリザベス女王の戴冠式に昭和天皇の名代として参列するため、皇太子(現在の裕仁天皇)が渡英された。



<港湾電話の開通試験>

用することにクレームがついたが解決し、機器の設置作業に入った。アンテナの設置、機器の設置、順調に進んだが、電話機の設置場所が無線機からか

なり離れており、ケーブルが足りない。大型船へ設置作業は初めてであり、延長ケーブルの必要性など考えていなかったもので、急遽、臨時対応として他の電話機のケーブルを切断し四芯のケーブルを何箇所か接続し対応した。出港当日は、港湾電話も順調に作動したが基地局の空中線が横浜市外電話局の屋上に設置されていたので、出港後すぐに本牧の山の影になり、約30分で圏外、使用不能になった。(その後空中線は、大楠山に移設された。)

・移民船の出港

大阪商船の移民貨客船「ぶらじる丸」の出港、神奈川県警察のプラスバンドの華やかな曲の中、船上の移民する人と岸壁で見送りをする人々との間には、数千本の五色の紙テープが各々手でしっかりと握られ、これが永久の別れやも知れず、別れを惜しんでいる。

出港のドラが鳴り響くと同時に岸壁電話を取り外す。「ぶらじる丸」の係留バース“S,C”は、エプロンが広くケーブルも長い、本船は側は、ポートデッキ付近に固定しあり、固定を解くとテープの上にケーブルが落ちテープは皆切れてしまう。「すみません。」「すみません。」と云いながらケーブルを回収するのだが、心の通い合っているテープを「バツサリ」は、非常に複雑な気持ちであった。

その後、車止めに端子函を設置したので、取外時にテープを切ることはなくなった。



尚、移民の婦人達は、殆んど「割烹着」姿、荷物の中には、大きなブリキの洗濯タライを持って行く人も居た。

あれから五十年、私がテープを切ってしまった方々、遠いブラジルの地で如何お過ごしでしょうか。

・検疫未了船への乗船

港湾電話の取り付けは、通常港内に係留してから作業であるが、外国帰り、横浜がファーストポート、沖待ちをするので、港外での取付けを依頼された。

早朝、天気晴朗、波静かな中訪船、まだ、船会社の人も、荷役関係の人達も来ていない。機器一式をチャートルームまで運び、無線局長に挨拶に行った。途端に局長は驚き、船内電話で誰か(ドクターかクォーターマスターか)に確認、「まだ検疫官が来ていない。検疫が終わっていない。」「センツウ全員(3名)無線室へ。」無線室に行くと、送信機の裏のスペースに、「ここに隠れて。」検疫終了前に乗船させると、船長の責任になるとのこと。20分程度で隠蔽生活から解放され、設置・開通。局長さんに「迷惑をかけたこと」「電話の開通」を報告に行くと、外国帰りのファーストポート入港船は、検疫終了までは、ブリッジ上のフラックラインにQ旗(黄色の旗)を掲げ、「検疫が未了であるから乗船するな。」を掲示しているとのこと。

こんな経験は、初めてであり、知らなかったとは云え---。帰所後、全員に周知した。タラップの下で待機していた我々のランチの船長は、何もなかったとのこと。検疫官も見てみぬふりか。

・機器の運搬手段

「港湾電話機」

< 初期 > リヤカー：自転車で曳く。

営業所→リヤカー→通船 →本船
営業所→タクシー→最寄駅→電車→駅
→本船

“電車”は最後部の出入口から乗降する。

(車掌は、機器の乗降完了を確認する迄ドア操作をしないので。)

・加入者の車両に便乗

(その後)

・軽三輪車(ミゼット:大村昆さんのコマーシャル)

ある土曜日の午後、船舶電話機器一式を積んで、晴海埠頭からの帰途、アベックで賑わう銀座四丁目の交差点でエンスト、交通整理中の巡査にも押しもらい側道に。三人とも汗びっしょり。

・三輪自動車

荷台は、鉄板で囲む。運転者以外は、天井からの吊皮に捕まり窓もない真っ暗やみの中でジッと耐える。

・四輪自動車の導入

・岸壁電話機

・自転車

荷台に約 50 cm×40×30、頑丈にするため、厚さ 30 mm位のラワン材の収納函取付。電話機を 5~6 個、ラインを入れると尻を振る。熟練者乗車可なれど、初心者危険、要注意。

原動機付自転車(ホンダスーパーカブ)

先日、発売 50 周年の記念イベントが開かれた。



昭和 33 年の発売開始以来、販売台数は、世界で 6,000 万台を突破したとのこと。

免許

横浜水上警察署で、センツウ社員だけの○×方式による原付試験を受験、全員合格。

<岸壁電話の電話交換>

・その他もろもろ

・給料 昭和 28 年 3 月入社時、初任給 5,500 円
4 か月後、8,800 円 日給ではなく月給ですぞ。
「日雇い労働者(いわゆるニコヨン)日給 240 円、月に直すと、240×25 日=6,000 円

・タバコ

当時日本では、タバコは配給制で貴重品であった。外航船へ船舶電話の取付けに行くと、良く貰った。特に米国籍船では、ラッキーストライク、キャメル、チェスターフィールド等など、私は吸わなかったの、机の引出しに入れておき、満杯になったので吸う人にあげていたが、人にばかりではと、自分でも 1 本、2 本と吸って、たちまちヘビースモーカーになってしまった。

平成 15 年 7 月、1 本 1 円の値上げを機に止めた。

・ショウチュウ

野毛の屋台で 1 杯 30 円、コップから溢れた受皿の分まで入れると 1.2 杯となる。オヤジに半杯の注文で 15 円、コップ 0.5 杯より多く 0.7 杯分は注ぐ。半分を 2 回注文すると 1.4 杯分。得した！得した！で何杯飲んでしまったことか。その後、自販機が出て来た。威勢よくピューとでるが、コップの上から 5 mm 位いでピタッと止まってしまう。機械はダメ。やっぱりオヤジ。

クリスマス

12 月 25 日早朝、高島埠頭の岸壁電話の仕事で桜木町駅の前を通るとイブに飲みすぎて帰れなかった人が 5~6 人、トンガリ帽子をかぶり、土産の手提げ袋を放り出して、オーバーの襟を立てて、尻もちをついて寝ている光景が多く見られた。

今の若い人は偉い。

・レクリエーション

毎年、春と秋の 2 回、1 泊 2 日で必ず実施していた。行先は、箱根、熱海、下田方面。宿泊は安上がりな電々か郵政の寮。社員を 2 組に分けて実施。最近では個人でドライブ、家族旅行、中には海外旅行まで行っており、会社の全員によるレク・泊旅行の魅力がうすれている。当時は、個人の旅行など考えられず、会社でのレク・泊旅行が唯一のものと期待されていた。全員が参加し欠は殆んど



居なかった。今昔の感。昭和 30 年 5 月の金時山登山。金時娘も今年で 80 歳、まだまだ元気に活躍していると側聞している。

・掖済会ビルとその周辺

大棧橋の入口「像の鼻」(当時は巾 2m 位のコンクリートが波除けとして貧相、真直ぐに延びているだけ)のすぐ近くに掖済会大棧橋診療所ビルが新築されたので、その 2 階と 4 階を借用し移転した。

横浜港への出入港船、大棧橋への離着岸客等が一望出来る絶景の場所であったが、周囲の環境は騒然たるものであった。

「像の鼻」の入口には、荷役会社の事務所があり、沖に停泊している本船の荷役に行き来する人夫達を送り迎える船の乗降場所になっていたの、常時、大勢の人夫達がタムロしていた。

「像の鼻」の内水面は、ハシケ留りとなっており、夜になると数十隻のハシケが集まって混雑を極めた。ハシケ内には、“トモ”側に 3 畳位の部屋があり、船頭の家族が生活していた。風呂はないが、トイレは、船尾から 10 cm 位の角材 2 本を後ろに出し、それに上り上がって海の中へ。気持ち良かったことだろう。

近年、周辺は一変し、綺麗になった。

大棧橋の大改修に続く「像の鼻」周辺の環境整備、隣接倉庫群の撤去、跡地の公園化、廃止高架線路の歩道橋化等々。更にこの地域に隣接したセンターピア、三菱重工業横浜造船所の跡地等、横浜の中心部の広大な土地が開放され、観光・商業・オフィス街等の近代的設備の整った地域となった。

* お悔やみ *

岩田達男 様 平成 21 年 3 月 13 日 84 歳
谷川種雄 様 平成 21 年 7 月 22 日 85 歳
謹んでご冥福をお祈りいたします。

次回の発行は 10 月を予定しています。